

＝岐阜高専＝

「腕の回転を利用した実用志向型電動義手を開発」

岐阜高専の電子制御工学科森貴彦准教授と精密機械部品メーカーである（株）岩田鉄工所（岐阜県羽島市）は、低価格で操作しやすい実用志向型電動義手の開発に成功し、9月17日岐阜県庁で開かれた岐阜県知事定例記者会見においてプレスリリースを行った。

本電動義手は、市販の板状センサーを腕の皮膚に貼り、腕を回転させることで生じる皮膚の起伏を電圧に変え、義手ハンドに伝える仕組みである。これにより、システムを簡素化し、価格の低減や習熟のしやすさを実現している。また、人工皮膚をかぶせて外見も配慮している。

2012年4月から、筑波大学医学医療系整形外科および茨城県立医療大学附属病院整形外科で臨床研究の準備を進めるとともに、2013年4月からは人間型ロボットハンドの技術を持つ同社と技術開発に取り組み、同年5月から岐阜県工業技術研究所（岐阜県関市）の協力を得て、研究を進めてきた。2013年に両病院の倫理審査の承認を得て、現在、臨床研究を進めており、5年以内の実用化を目指す。



古田岐阜県知事（左手前）に試作した電動義手の説明をする森准教授（右から2番目）と専攻科2年生田中優弥君（右端）